

**製品名: EP1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab10491**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	44kDa

**抗原情報**

遺伝子名	PTGER1
別名	PTGER1; Prostaglandin E2 receptor EP1 subtype; PGE receptor EP1 subtype; PGE2 receptor EP1 subtype; Prostanoid EP1 receptor
遺伝子 ID	5731.0
SwissProt ID	P34995
免疫原	抗血清はヒト PTGER1 の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 191-240

**背景**

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、Gタンパク質共役受容体ファミリーのメンバーです。このタンパク質は、プロスタグランジン E2 (PGE2) に対して同定されている4つの受容体の1つです。ホスファチジルイノシトール-カルシウムセカンドメッセンジャーシステムを介して、G-Qタンパク質がこの受容体の活性を調節します。マウスを用いたノックアウト研究では、この受容体が鎮痛作用と血圧調節に関与していることが示唆されました。また、マウスを用いた研究では、この遺伝子が細菌性エンドトキシンに対する副腎皮質刺激ホルモンの反応を調節する可能性も示唆されています。[RefSeq 提供、2008年7月]、機能: プロスタグランジン E2 (PGE2) の受容体。この受容体の活性は、ホスファチジルイノシトール-カルシウムセカンドメッセンジャーシステムを活性化させる G-Qタンパク質によって媒介されます。腎機能の重要な調節因子としての役割を担っている可能性があります。様々な組織における PGE2 に対する平滑筋収縮反応に関与する。、PTM: リン酸化。、類似性: Gタンパク質共役受容体1ファミリーに属する。、組織特異性: 腎臓に豊富。肺、骨格筋、脾臓では発現レベルが低く、精巣では最も低く、肝臓、脳、心臓では検出されない。、

## 研究分野

カルシウム;神経活性リガンド-受容体相互作用;

## 画像データ



EP1 ポリクローナル抗体を用いた HepG2 細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈された。